

<以下生徒の声を一部そのまま掲載> ☆障害を異彩として考えている考え方を聞いて、自分自身も新しい考えを持つことができたし、みんなに伝えたいという思いを全面に色々な活動を次から次へと展開してとても感心したし学べる部分が多かった。 ☆普通は欠点だとカナガティブに考えてしまうような部分を逆に捉えて明るく役立つものに変えて

いくことが出来る
ということがわ
かった。また、障
がい者への捉え
方が、松田さん
の話を聞いてす
ごく変わったと
思った。松田さん
の話を聞いて、
変えられること
があるとわかっ
たから自分も

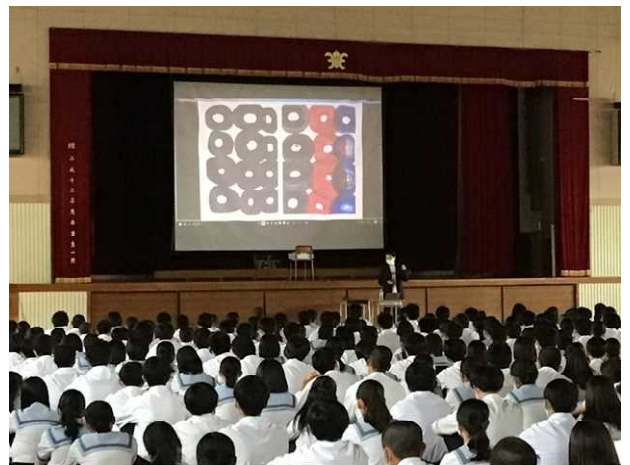
ハクシク H×ACT LECTURE 開催報告

目的 課題発見力と実行力を身につけるための成功例に触れ、探究活動に活かす。
日時 7月8日(木)6校時 14:55 ~ 15:55 第一体育館
講演者 株式会社ヘラルボ二副社長 松田文登 氏
テーマ 「着想から行動へ」

HACTで何かを変えることが出来るように取り組んでみようと思った ☆違和感を感じてそれをどうにかしようと思った。☆今までは障害者がかわいそうだという固定概念があったけど今回の講話を受けて障害を個性として受け入れてみんな同じに接する事が大切だと思った。☆身近な経験を生かして、社会がもっている偏見や後ろ向きな常識を、双方にとって良い方向に変えていくということが大切だと知ることができた。☆会社を立ち上げるまでのエピソードや、どんな活動をしているのかなどをわかりやすく説明して、発表の仕方などを参考にしてきた。☆障害のある人に対するイメージがだいぶ変わった。ただ人それぞれに違うだけだということ、みんな違ってみんないいという言葉があるようにただその人が周りや違うだけのことなんだと考えることが出来るようになりました。☆今日のハクシクで障がい者の異彩なアートを描くということを知り、自分の知らない世界を知れた。☆障害を持つ人の作品を活用するように差別をなくどのような人でも同じように接していくという考え方を身につけることができた。☆障害という言葉と個性と言い換えていた松田さんを見て新しい視点から障害について見られるようになった。☆私は障害があるけれどそれぞれのせいで自分のしたい事や目標は絶対諦めないようにしようと強く思えました。こうやってなにか大変なことに向き合っている人が頑張っているんだとわかり、私も頑張らなきゃ...と思いました。☆最初は2人の人たちでも、自分から積極的に行動すれば、ほかの人たちも協力してくれて最終的に大きな組織になることが出来るという事実を知って、その人の体験談を聞いたことが有意義だったなと思った。☆障害はネガティブなものではなく、個性だと考え方が変わった。アートがとても綺麗で援助で買うということではなくて、ほんとに欲しいなと思った。☆自分の身の回りで考えたことを実際にACTして、起業や新規事業開発などの行動に移しているのがすごいと思った。

☆かわいそうだから障害者の作品を買ってあげるのではなく、その作品を評価し、見合った価値をつけていること。また、信念を貫き実際に行動すること。☆私は障害者と聞いて余り良いイメージはわきませんでした。ですが、松田さん達のヘラルボ二という会社の話を聞いていくことに障害を個性として考えアートというもので周りの人とを繋げているんだなとおもいました。☆自分の考えや思ったことを実行に移すために必要な事や実際に経験したから分かる重要なことを学べたので有意義だったと感じた。☆「障害者」と聞くと無意識のうちどこか身構えてしまっている自分に気がついた。そのような、一般的には無意識である部分に疑問を持って行動をしていること、また、既に呼びかけられているようなものではなく新しい方向から考えて活動していることに感銘を受けた。ひとつのきっかけで様々な発見があり、それが自分の道を決めることもあるのだと知ることができた。今まで知らなかった新しい世界を知ること、探求発展へと繋がったと思う。このような点からこの時間は有意義であったと感じた。☆障害を持っている人の作品が、自分よりも感性豊かに表現されていた。障害は個性だと言っていたとおり、自分よりも優れた能力を持っていない訳ではなく、自分たちより自由な発想ができることもあると知った。☆障害者の今までの印象をくつがえす内容だったので、新しい視点に立つ良い例だった。

<以上生徒の声を一部そのまま掲載>



☆かわいそうだから障害者の作品を買ってあげるのではなく、その作品を評価し、見合った価値をつけていること。また、信念を貫き実際に行動すること。☆私は障害者と聞いて余り良いイメージはわきませんでした。ですが、松田さん達のヘラルボ二という会社の話を聞いていくことに障害を個性として考えアートというもので周りの人とを繋げているんだなとおもいました。☆自分の考えや思ったことを実行に移すために必要な事や実際に経験したから分かる重要なことを学べたので有意義だったと感じた。☆「障害者」と聞くと無意識のうちどこか身構えてしまっている自分に気がついた。そのような、一般的には無意識である部分に疑問を持って行動をしていること、また、既に呼びかけられているようなものではなく新しい方向から考えて活動していることに感銘を受けた。ひとつのきっかけで様々な発見があり、それが自分の道を決めることもあるのだと知ることができた。今まで知らなかった新しい世界を知ること、探求発展へと繋がったと思う。このような点からこの時間は有意義であったと感じた。☆障害を持っている人の作品が、自分よりも感性豊かに表現されていた。障害は個性だと言っていたとおり、自分よりも優れた能力を持っていない訳ではなく、自分たちより自由な発想ができることもあると知った。☆障害者の今までの印象をくつがえす内容だったので、新しい視点に立つ良い例だった。



松田崇弥・文登(双子起業家)... ·1時間 ...
「もしも僕がビックになったら、コラボしてくれますか?」

本日、岩手県の高校生に向けての講演会を終えて、帰ろうとするときに放たれた一言。

彼は将来、デザイン会社を経営したいのだそう。寮生活をしてインターハイを目指した高校時代を思い出す。

告白されたような気持ち、夏をありがとう。

